

上天草市史大矢野町編 4 天草の門（近現代編）目次

発刊の言葉

凡例

大矢野町のすがた

第一章 明治維新と大矢野

第一節 維新の動乱と地域の変遷

明治維新／天草の動乱／長崎裁判所・天草県・長崎府・長崎県時代／八代県・白川県・熊本県時代

第二節 佐賀の乱異聞

第三節 西南戦争と大矢野の騒動

第二章 郡区長村制と市制町村制

第一節 三新法と大矢野

大矢野にも公選の村戸長／湯島、維和の分村独立／戸長役場の機能

第二節 市制町村制と大矢野

大矢野5か村は独立／町村制施行時の大矢野／新聞報道に見る大矢野の動き／海外発展に活路を求めた人たち／衛生啓蒙、防疫対策に率先した登立村

第三節 「群制」と宇土郡への編入構想

九州日日新聞が宇土郡編入キャンペーン／語り継がれなかった警察署所轄変遷と登立分署書設置案

第三章 交通の近代化

第一節 三角西港の築港

大矢野島飛岳の石材で築港／明治20年8月、三角西港が開港

第二節 三角港始発の九州鉄道

明治32年、三角線が開業

第三節 三角際崎の東新港誕生

三角港が第2種重要港湾に／三角港域の規模

第四節 天草の海上交通

競争が激しかった天草沿岸の航路

第五節 大矢野の海上交通

定期航路がスタート／明治23年、柴尾山に洋式灯台

第六節 大矢野の道路

往還道 明治28年、県道富岡往還が着工／明治・大正の道路網／人力車から自動車へ／大正2年、大矢野でフォードが走る

第四章 日清・日露戦争と大矢野

第一節 日清戦争

朝鮮甲申事変と竹添公使／徴兵令への抵抗／天草報国義団の発足／回線と義勇録／大矢野から25人が出征、戦死者なし

第二節 日露戦争

満州の権益めぐり、ロシアと衝突／大矢野から116人が出征／出征した人たち

第五章 大矢野の教育 I (戦前の教育)

第一節 学生発布による教育の夜明け

第二節 教育の移り変わり

第三節 町内学校の歩み

登立小学校／維和小学校／上小学校／上小学校賤之女分校／上小学校野釜分校／大矢野高等小学校／中村小学校—中北小学校／中南小学校／生木南小学校江後分校／湯島小学校

第四節 社会教育の歩み

青年会／実業補習学校／同窓自脩会／通俗教区・補習教育

第六章 近代産業のおこり

第一節 農業

富国の為に地租改正／持つ者と持たざる者(地主制度と小作問題)／昭和33年までの干拓／ふるさとの特産品／水稻／麦／甘藷(カライモ)／サトウキビと黒砂糖／馬鈴薯／昭和11年から葉タバコ耕作／女性労働が支えた戦中の葉タバコ耕作

第二節 酪農

熊本県酪農の生誕地／大矢野は酪農組合の源流／明治期に外国産乳牛を導入／農家生産牛乳の誕生／生産調整から森永乳業誘致へ／県内畜産乳牛の70%が大矢野で

第三節 漁業

漁業権は地元漁民へ／明治8年の漁法の改革／旧慣への回帰／明治26年、天草郡漁業組合が創立／対象6年の大矢野地区5か村の漁業組合の運営／湯島村の実業補習学校設立／熊本県初の水産試験場が登立村に／クルマエビ養殖がスタート／朝鮮半島の沿岸まで出漁／10日以上かけて韓海へ／元上村七ツ割のマテ貝漁

第四節 商工業

工場誘致／大正期、県内トップのレンガ生産高／登立と中に瓦工場／登立に貝灰工場／大矢野にも清酒の蔵元／揚浜式塩田で製塩／戦前まであった大矢野の塩田／木造船づくりをリードした天草／大矢野町商工会の成立

第五節 鉱業

大矢野の特産砥石(流紋岩)古くから利用された飛岳の石／飛岳の採石間歩(採石現場)

第七章 暮らしの近代化

第一節 郵便と電信・電話

郵便局の産声／郵便の統廃合と近代化／明治27年、天草に電信開通／大正10年登立郵便局が電話業務開始

第二節 大矢野の電気

電燈導入の会議開催／維和地区への電燈導入は昭和3年から

第三節 医療

近代医学「伝授の場所」／明治の疾病系図／医療法人蘇心会竹島家歴代譜／医療法人社団松丸会島田小児科医院譜／医療法人仁寿会中村医院譜

第四節 警察・消防団の発足

警察機構／消防団

第五節 金融機関「予測された合併悲劇」

第八章 農村の窮乏と大矢野の力

第一節 奪われる農村部の自給自足生活

農業恐慌／節約決議

第二節 天草の農村事情

出稼ぎの意義／「カラユキさん」の時代／大矢野の出稼ぎ／半農半漁の力

第三節 天災に泣く

干害の救済手続き

第九章 十五年戦争と銃後

第一節 満州事変から日中戦争へ

演習のための増税／満州開拓の受難／統制とファシズム／二・二六事件の波紋／三角港の軍艦見物に1万5千人

第二節 戦時経済体制強化と国民生活の破綻

食料、日用品、個人の生活にまで統制／農漁村は人手不足が深刻化／銃後を支えた女性たち／大政翼賛会天草支部が発足／大日本婦人会天草支部の結成／農業共済の前進、天草農業保険組合を設立／生活必需品まで配給と切符制に／京城からの便り

第三節 日米開戦と天草

九州防衛作戦に天草も組み込まれる／アメリカ軍の九州侵攻作戦／昭和12～20年に登立から1123人が出征／鍋・釜・ボタンまで金属回収／バケツリレーで防火訓練／大矢野は後方支援基地に／配給制度を支えた供出制度

第十章 戦時下・終戦時の大矢野

第一節 座談会—戦中・戦後を語る—

第二節 戦時下の学校

出征兵士見送りと遺骨迎え／昭和16年忍び寄る大戦の足音／昭和17年高まる戦勝ムード／昭和18年強まる軍国主義教育／昭和19年戦争に巻き込まれていく学校／昭和20年追い詰められ、散りぢりとなる学校

第十一章 大矢野の教育 I I (小学校の復活と中学校の設立)

第一節 国民学校から小学校へ

登立小学校／維和小学校／上小学校／上小学校野釜分校／中北小学校 中南小学校／中南小学校江後分校／湯島小学校／上北小学校

第二節 新制中学校の発足

第三節 町内各中学校の歩みと発展

大矢野中学校／維和中学校／湯島中学校

第四節 天草農業高校大矢野分校

第五節 大矢野高等学校

第六節 戦後の社会教育

青年学級／家庭教育学級／中央公民館／森記念図書館／総合体育館

第十二章 大矢野町の成立

第一節 町村合併促進法と大矢野の町村合併促進

町村合併揺籃期の大矢野／町村合併促進委員会とその後の経緯／住民側の憂慮／合併促進の最終章

第二節 大矢野町の発足

新町建設計画と初年度の赤字決算／自主財政再建の県指定

第三節 町村合併の効果

第十三章 天草五橋の建設

第一節 離島天草の宿命

第二節 天草架橋の発議

森慈秀の架橋建議

第三節 架橋期成会と町後援会

天草架橋期成会の発足／天草架橋大矢野町後援会の結成

第四節 天草架橋の建設経過

第五節 天草五橋の完成とその影響

開通直後とその波紋／天草五橋の総合的評価と問題

第十四章 経済成長と過疎化

第一節 農業の近代化

農業の零細化／農業にも機械化の波／農業の転換点／離農への動き／大矢野の農業構造改革事業／総合農政の展開

第二節 戦後の農産物

グリーンピース／柑橘／花卉栽培／花の危機／花づくりの追及

第三節 農業協同組合の成立

農協のルーツ／農業協同組合の成立／旧町村の農協／県内最大・第1号の農業協同組合誕生／JAあまくさの誕生

第四節 漁業の近代化

大矢野町漁協の誕生／クルマエビおよびワカメの人工孵化・稚エビ養育の技術革新／大矢野町の真珠養殖業／大矢野町進出の真珠養殖の企業／大矢野町における真珠養殖の変遷／国・県・町の農業水産振興

第五節 商工業

砥石産業の変遷／大矢野石材の活用／戦後の大矢野の造船業／大矢野の海運業／戦後の商工会／五橋開通前後の大矢野町の商工業

第六節 観光

観光資源／観光開発の経過／観光大矢野の問題点

第七節 町民生活の変容

大矢野の住宅事情／大矢野の水事情および上水道の整備／広域水道／三種の神器／オイルショック／過疎と高齢・少子化・核家族化／バブルと平成不況／大矢野警察署の誕生／消防団

第十五章 平成の合併

第一節 合併の必要性

第二節 任意協（天草上島四町合併推進協議会）発足までの経緯

幻の「五橋市」構想／天草は一つか／上天草四町合併推進協議会の発足

第三節 法定協（天草上島四町合併協議会）の発足

上天草市誕生までの歩み

第十六章 人物

第一節 大矢野の先達

値賀盛純／竹添進一郎／道永エイ／日高武六／吉田家親子三代（吉田宗徳、吉田宗雄、吉田宗孝）／山崎若松／森慈秀／田中勘藏親子二代（田中勘藏、二代目田中勘藏）／藤島敬介／水野清一／二神勇雄／梅崎保男／宮本研／その他の群像

第二節 大矢野ゆかりの文人墨客

徳富蘇峰／与謝野晶子／森田恒友／石井柏亭／龍清六／橋本徳壽／東郷青児／築山節生／松本清張／北条誠／荒木精之／山口白陽／劉寒吉／檀一雄／宮崎康平

参考文献

お世話になった方々

編纂市議会・編纂委員・近現代執筆委員

あとがき

大矢野近代年表